

平成28年10月17日

資料提供先

福山市政記者クラブ  
府中市役所記者クラブ

# 芦田川大橋の下流でピラニア捕獲について

～ 水辺へ近づく際には、注意して下さい ～

国土交通省では、芦田川の自然環境の保全のため、平成3年度から5年毎に実施している「河川水辺の国勢調査」の一環で「魚類調査」を実施しています。

芦田川大橋の下流（河口から2k500付近）では、10月13日から捕獲網を設置し、調査を実施していたところ、ピラニアの成魚が1個体確認されました。

芦田川でピラニアが発見されたのは、今回が初めてのケースであり、関係機関とも協力しながら、必要な措置を図って参ります。

なお、魚類調査の助言を頂いている海野徹也准教授（広島大学大学院 生物圏科学研究科）によると、国内では本種の生息可能な水温からすると越冬することは不可能と考えられます。また、本種は警戒心が強く、ある程度個数が増えないと動物等が襲われることはないとも思われますが、本来、肉食性の魚類であるため、血液などで興奮し、噛まれる可能性もありますので、水辺などに近づく際には、注意して下さい。

【確認日】平成28年10月14日（金）

【確認地点】芦田川大橋の下流付近

【採集漁具・体長】刺網・15cm（成魚）

## お問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所

副 所 長 おおくほまさひこ 大久保雅彦【担 当】調査設計第一課長 わかいかつひみ 若井 克文

TEL(084) 923 - 2628

TEL(084) 923 - 2620(代表) FAX(084) 923 - 2517

ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/fukuyama/>

# 魚類調査位置



ピラニア写真（左：今回捕獲した個体、右：網で捕獲した際の状況）



外国産	外国産
-----	-----

分布	アマゾン川、オリノコ川、パラナ川など。
特徴	体は丸みをおびる。腹部は赤色～黄色で、体側に小斑が見られることもある。ほかの多くのピラニアと同様に鋭い歯をもつため取扱いには注意が必要。大きいものは全長 50cm をこえるとも言われているが普通はもっと小さい。
生息環境	河の止水域に多いが流水域にも見られる。群れを作る。
食性	肉食性が強い種類で小魚を主に食い、陸生の動物の肉も捕食する。ごくまれにヒトを襲うこともある。
その他	日本においては観賞魚店で最もよくみられるピラニアと言える。日本では野生の個体の他、飼育下で繁殖した個体の流通もある。しかしながら獰猛で鋭い歯を有するため危険であり、また同種同士または単独で飼育する必要がある。原産地である南米では食用魚として重要。

文章出典：WEB 魚図鑑